

附属幼稚園 廃園「ダメ！」

『廃園見直しを求める陳情』 採択！！

3月19日市議会最終日、江戸川台東にある流山市幼児教育支援センター附属幼稚園を廃止するという市長方針に対し、「見直し」を求める陳情が採択されました（賛成18
断念まで、引き続き、世論と運動を広げていきましょう。

日本共産党市議団
緊急要望書を提出

（日本共産党、流山みらい、公明党、自民党）、反対7（青野直、笠原久恵、石原修治、近藤みほ、渡辺仁二、川本大岳、小沢えみり各議員）、棄権2（矢口輝美、鈴木ゆうすけ各議員）。附属幼稚園の幼児教育の高い実践に対する支持と信頼に裏付けられた市民の世論と運動が議会を動かし、市民と議会が良識を示した形です。

陳情採択を受け、党市議団は議会終了直後、井崎市長へ『緊急要望書』を提出。附属幼稚園の廃園方針を撤回に加え、安心した教育実践の提供、いじめや不登校に対応する教育研究企画書の体制強化、幼稚園・保育園・小学校の連携強化、児童発達支援センターつばさ学園執務室の法令違反の是正、私立幼稚園・認可保育園の支援強化、小児夜間救急体制の充実などを求めました。

廃園計画の撤回・廃園条例の提案



3月19日、井崎市長、石原副市長へ『流山市幼児教育支援センター附属幼稚園の廃園方針を撤回し、教育・保育・療育・医療のさらなる充実を求める緊急要望書』を提出した党市議団



日本共産党 流山市議会議員
おだぎりたかし

流山民報号外（24.3.20）小田桐090-8567-8858

昨年10月13日に流山市幼稚園協議会から出された答申は「廃園」の意見だけが出ていたわけではありませ
ん。「存続」の意見もあり、「認定こども園化」の意見もありま
した。にもかかわらず、2週間後に開かれた教育委員会議
議の議題には、それらの意見は全く反映されることがなく、
廃園のみの議案が教育委員会議に提案されました。
陳情理由1番「流山市立幼稚園協議会の
答申をひまさない」
はまさにその通りです。

さらに、幼稚園協議会から答申が出された10月13日から、教育委員会議が開催された10月26日までのこの期間、どうい
う議論を経て、両論併記だった答申を「令和7年度末
をもつて廃園とする方針」に至ったのかは、いまだに不明
です。公金で対価を払う公務員の業務なのに、会議の
招集も、式次第も、一切、何も記録を取っていない。
まさに、陳情理由2番の「令和7年度末の
廃園ありきでのスケジュー
ル設定」通りに強権的にすす
めていきます。

また、「教育を行うための諸条件の整備のため
に重点的に講ずべき事項」
については

「総合教育会議で協議する」と「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で規定されているに
も関わらず、陳情理由の3番の通り、いまだに総合教育
会議は開かれていません。附属幼稚園の廃園という就学前
の人格形成の土台形成の環
境を大きく変える重要な事項という行政上の認識不足の表
れです。

そして、陳情理由の4番、附属幼稚園の実績の無視です。教育長は「無視して
いない」と口では言うてし
よ、10年以上、機能していな
かったセンターは残して、干
葉県モデルにまで選ばれ、実
績を積み、保護者や市民に信
頼され、支持されている附
属幼稚園はつぶすという判
断を下した時点で、それは
実績の無視に値します。

幼児教育の底上げを図るために幼児教育支援センターを充実
させるのは良いことです。
しかし「そのために附属幼
稚園を廃園にする必要はな
い」という委員会の疑い
に対して、「井崎市政が
進めてきた『民間に

「廃園見直しを求める陳情書」に対する いぬいえり議員の賛成討論 (概要)

できることは民間で」とし、「附属幼稚園の立て直しをするには財
政負担が大きい」、「バラ
ンスをとった」
との回答もありました。
しかしバランスとい
うなら、井崎市政はバ
ランスよい市政をして
きましたか？整備済み
の駅前道路を再整備す
るのに総額5億円、幼
稚園費用の10年分を
投入していません。
そもそも市内3園の公
立幼稚園のうち、2園
を廃止し10年、いまだ
に財政のバランスで
ごまかそうとは、議
会や市民を甘く見過
ぎではないでしょうか。
また幼児教育支援セ
ンターのセンター長は、
行政上の都合で、教
育研究会とも兼務さ
せられています。教育
研究会は、この間に
いじめや学校生活上の
悩みなど年間2千件近
い教育相談と、年間4
00人を大きく超える
不登校の児童生徒に向
き合い、一人ひとりの
異なる悩みや思いにも

寄り添わなければなら
ず、片手間でできる業
務量でも、業務内容で
もありませんから、今
までと同じ組織体系で
は、市の答弁に何らの
保障もありません。
委員会では、「最初
からやり方を間違えた」
との強い指摘があり、
教育長は「幼稚園協
議会を立ち上げる時に、
まずは保護者の方の
声を聴くべきだった」、
「お詫び申し上げます」
と回答しました。それ
ならば、いまここで立
ち止まり、廃園方針を
撤回し、不安を広げた
現場や保護者に園継続
の安心こそ提供すべき
です。

流山では今「子ども
の権利条約」を市政に
生かす機運が高まっ
ています。パブコメに
十人もの子どもたちが
「なくさないで」と意
見表明しても、廃園
方針は撤回しない。こ
れで子どもの権利など
語れるのですか。
先日の子ども会議の
報告会では、市長は
「独裁的な政治は決
めるのが早いけれど
よくない」と話す一
方、パブコメや署名
という形で上げられ
た市民の声を無視し
た、こんな強権的な
進め方は、断じて許
されないと強く意見
を述べ、賛成討論
とします。

異なる悩みや思いにも